



北京にて

中部校第1期卒業生 慶徳千代子



3月18日、降り立った北京は、夕闇に包まれようとしていた。

薬膳を学んでいる私に突然降って来た知らせに、北京行きはすぐに決まった。

第3回大会の主題は「薬膳と健康」である。4種目への挑戦は、プロが挑むであろうこの大会を経験する事の大切さと、日本の食文化を伝えたい思いからである。旧の桃の節句は桃の花の咲く4月、人の一生に大きく関わる五臓の特に腎と肝に焦点を当てテーマを天葵とし、メニューは 冷菜類：雞粥 熱菜：お節アレンジ 面点類：雞もち 鍋湯類：宝鍋(豆乳鍋)と決めた。

参加選手に与えられた時間は1種目60分2皿、展示用10人分と味見評価用5人分をその場で作成するという規定である。現地の状況が見えない中、大皿中皿5枚と米、野菜、調味料等の食材と食器、まな板、布巾、包丁まで、合わせて60kgの大荷物となった。

会場となった京燕飯店のロビーに掲げられた真紅の大会横断幕が参加者を迎えてくれていた。

19日の開会式では大会会長、国宝大師他、高名な方々が並ばれ挨拶された。歴代の皇帝の行宮庭園であり西太后の別荘であった頤和園の責任者で、日本語の冗談も得意な張先生にお世話頂き、料理の鉄人で陳健一氏を破った崔先生(女性)も、出来る事なら何でもと温かい励ましと協力を申し出て下さった。

総勢300人の写真撮影は、見事なものだった。211名の選手団のうち4種目に挑戦したのは30名、その中で、選手の一人である河北省の胡さんとの出会いがあり、歓迎の宴の後、親切に申し出て下さった胡さんと韓国代表の崔先生(男性)と一緒に買い物に出かけた。大きな市場は日本の昭和30年代、高度経済成長時代をおもわせるような、雑多ながらも生き生きとした躍動感であふれていた。

市場が5時で終わるとは知らず閉め出されあわてたが、おおきな建物の外はまだ活気に満ちていた。胡さんは自分の買い物を後にまわし、我々に付き合って下さり、崔先生と重い荷物を持って下さった。それにしても、外国の男性はやさしい。胡さんの与えられた時間が、次の日の午後とはつゆ知らず、20日の午前を買い物に当てたということの後から聞き、感謝しつつ反省した。

調理時間は20日の朝、7時20分から4種目2時間、一種目30分しかなく、ほとんど、組み立てる時間だけである。選手が前大会の倍になったことが関係し、規定時間の半分になっていた。19日ならまだしも、出発前夜、徹夜で準備してきたニンジンやコンニャクの煮物が、冷蔵庫に入れていたにもかかわらず、使える状態ではなくなっていた。夜から下準備が認められたが、未完成のまま明け方の3時できりあげた。食材は大体そろったが、使い慣れない大型の厨房に、まな板も使い回す等、とにかく味はまずまずだったが、食材は焦げ、紛れ込み、また大皿も特大はなく、大幅な変更を余儀なくされた。臨機応変のおかげか、郷に入ったら郷に従えか、中国的な鮮やかな色彩となった。日本ではNHKに当たる中央テレビが取材に来ており、いつまでも手元を写していたのには参ったが、今大会は雑誌社2社も加わり、テレビの取材は世界中に配信されるという。コンテスト終了後、劉先生の通訳でインタビューを受け、NPOでの活動内容にも触れて話す時間を頂いた。

21日の午前まで大会は続き、午後は3時から閉会式。今大会は補が多く、瀉が少なかったとの講評は次回への参考となった。表彰式に移り、薬膳大師数名の後、薬膳名師が発表された。最初に呼ばれたらしく、劉先生が後るから教えて下さった時には、大変さもあっただけに信じがたかったが、壇上で名師の称号を頂き、金メダルを掛けていただいた時には、嬉しさよりも身の引き締まる思いであった。ホテルの厨房は、かねてより是非覗いてみたい場所だった。ホテルグループの挑戦らしく、すごいスピードで動く白衣に高い帽子の若いコックさん達に混じりホテルの厨房で調理出来たことは、貴重な経験となった。古橋さん、羅さん、共に名師を頂き、田原さん、永田さんは一種目部門で金賞に輝いた。これは、すべて劉先生、勝本先生、鷲見先生、重い荷物を持っていただき励まし続けて下さった古橋さん、自国での開催に、一生懸命自分の事は後に回し通訳して下さい下さった羅さん、御一緒していただいた田原さん、永田さん、そして、いやな顔一つせず遅くまで動いて下さった京燕ホテルの若いコックさん達、胡さん、崔先生のおかげである。胡さんも金賞に輝いた時にはとても嬉しく、選手同士称えあった。一週間に徹夜が三日、良く身体も荷物も持ったものだとながら感心したが、帰れば、仕事も所用も大きな試練も待っている。胡さんとも2年後に来ることを誓った。早朝、車は空港へ向かう。頤和園の周りに連なる丘陵には、旧の節句を祝うかのように桃の花々が朝もやの中、やさし気に咲いていた。



薬膳学院

家庭薬膳アドバイザー・中医薬膳師

上記の内容を商標登録し、特許を取得しました。

本草薬膳学院事務所及び教室転居のお知らせ

〒101-0041

東京都千代田区神田須田町 1-18 共同ビル 8F 803号

電話番号：03-3526-6039

FAX 番号：03-5294-0190